



新中期計画に表れる、地域の特色、社会教育の潮流

今年度、県南地区の3自治体が新社会教育中期計画の下でのスタートを切りました。

その中の一つ、仙北市の第4次社会教育中期計画で目に留まるのは、「コミュニティ・スクール」「共生社会」「幸福度」といった言葉です。また、「芸術文化」という言葉は、第3次・第4次いずれの計画においても繰り返し用いられていました。

他の自治体の計画も、これまでの施策の振り返りを基に浮かび上がった地域課題を反映したものになっていることが伺えます。そして何より、学びを通して地域住民の豊かな人生を築いていきたいという強い願いが伝わってきました。折に触れて読み返していきたいと思います。

県南社会教育主事連絡協議会総会・第1回研修会



今年度の総会・第1回研修会が湯沢市川連漆器伝統工芸館を会場に開催されました。総会では今年度の事業計画、予算が承認され、県南の社会教育のネットワークが始動しました。

研修会では、秋田県漆器工業協同組合の佐藤公理事長を講師として、川連漆器の歴史や製作工程を学びました。川連漆器は、地域の里山を生かして豊かに暮らす人々の知恵が形となったものであることが分かりました。参加者の皆様にとって学びの多い時間となった

ことと思います。

昨年度と今年度、事務局を担当してくださっている湯沢市教育委員会生涯学習課の皆様には、たいへんご難儀をおかけしました。どうもありがとうございます。

アドバイザーコラム：学校・家庭・地域の連携・協働 25

部活動の地域移行⑤

社会教育アドバイザー 小笠原 重夫

年度が替わり、いよいよ部活動地域移行の「改革推進期間(令和5～7年度)」に入りました。ここに来て、市町村の動きがじわり見え始めています。

南管内でも、地域移行の具体的な取組を検討する「協議会」を立ち上げたり、地域スポーツクラブ活動の運営・実施主体と中学校との連絡調整や安全管理、指導者の派遣管理等の役割が期待される「コーディネーター」を配置したりするところが出てきました。

私事ですが、筆者は「大仙市部活動地域移行推進本部(以下、推進本部)」の委員に委嘱され、過日開かれた推進本部会議の初会合に出席しました。

推進本部会議は、教育長さんを本部長とする諮問・決定機関ですが、推進本部会議

の下には、「運動部活動検討委員会」と「文化部活動検討委員会」が置かれています。

大仙市で特徴的なのは、運動部活動と文化部活動の双方を、一体的に地域に委ねようと検討を進めている点です。

ですから、同市では、運動部活動担当と文化部活動担当のコーディネーターを2名、市教育委員会事務局に配置しています。

報道では、どちらかという運動部活動の地域移行の方が主になっている感がありますが、文化部活動の地域移行についても、その方向性は運動部活動と何ら変わりはありません。

同市の2人のコーディネーターが、それぞれの地域移行について、今後どのような手腕を発揮するのか、当事者の一人としても何だかとても楽しみです。

